中学２年　国語科　教材別テスト⑤　「短歌に親しむ／短歌を味わう」　模範解答・解説

教材別リメイク版　中学２年　国語　／　「短歌に親しむ」「短歌を味わう」／光村図書『国語２』

【このテストの使い方】

短歌の本文は載せていません。**教科書『国語２』（光村図書）の「短歌に親しむ」「短歌を味わう」のページを開いたまま**解答します。大問四は**どの一首を選んでもよい自由選択型**です。そのため、模範解答には「正解の一つの形」ではなく**採点基準（ルーブリック）**を示しています。選んだ歌がちがっても、同じ基準で採点できるようにつくられています。なお、答案に歌の全文を書き写す必要はありません。

配点一覧

観点	大問	内容	配点
知識・技能 50点	一	漢字の読み書き（20問）	１点×20＝ 20点
	二	語句の知識（語の意味・慣用句・部首名・対義語・熟語の組み立て）	２点×７＝ 14点
	三	短歌の形式と修辞の用語（三十一音・上の句／下の句・腰・枕詞・倒置法・体言止め・隠喩）	２点×８＝ 16点
思考・判断・ 表現 50点	四	短歌の鑑賞（自分で選んだ一首について記述）	50点
合計			**100点**

【出題のねらい】

①　短歌の**形式**（五・七・五・七・七の三十一音、上の句・下の句、初句〜結句）を正確に理解しているか。

②　**句切れ**を、意味や言い切りの形を手がかりにして自分で見つけられるか。

③　**字余り・字足らず**を、実際に音を数えて確かめられるか（指で数える習慣をつけさせる）。

④　**修辞（体言止め・倒置・比喩・擬人法・反復・対句・枕詞）**の名前と働きを結びつけて説明できる

か。

⑤　三十一音という短い形式の中にこめられた**情景と心情**を読み分け、自分の言葉で書けるか。

一　漢字の読み書き　（１点×20＝20点）

番号	解答	番号	解答
①	よ（む）	⑪	季節
②	じょけい	⑫	玄関
③	いんりつ	⑬	永遠
④	せんりつ	⑭	象徴
⑤	ふる（える）	⑮	染める
⑥	せんさい	⑯	砂浜
⑦	きょうしゅう	⑰	涙
⑧	あいしゅう	⑱	故郷
⑨	ぎんみ	⑲	輝く
⑩	あざ（やかな）	⑳	幼い

小計　20点

【注意したい字】

①「詠む」は「よむ」。歌や詩をつくる意味で、「読む」と書き分ける。②「叙景」は「じょけい」。「じょっけい」「じょきょう」は×。④「旋律」は「せんりつ」。「せんりちゅう」などは×。⑤⑩⑮⑲⑳は**送りがなまで**必要（震える・鮮やかな・染める・輝く・幼い）。⑬「永遠」の「遠」はしんにょう。「氷遠」は×。⑭「象徴」の「徴」は「微」と形が似ているので注意。⑮「染める」は「そめる」。「染る」は×。⑱「故郷」は「こきょう」。「ふるさと」と読ませる設問ではない。

二　語句の知識　（２点×７＝14点）

番号	解答	解説
(1)	**イ**	「叙景」＝風景のありさまを文章や歌に表すこと。気持ちを直接述べる「叙情」と対になる語。短歌の鑑賞では、まず**叙景の部分**と**叙情の部分**を分けて読むとよい。
(2)	**ア**	「余韻」＝あとに残る響きや味わい。体言止めや句切れが生み出すものを説明するときに使う語。「余白」と混同しないこと。
(3)	**イ**	「郷愁」＝ふるさとをなつかしむ気持ち。ふるさとを離れた思いをうたう歌の心情を説明するときに使える。アは「あこがれ」で別語。
(4)	**ア**	「胸を打つ」＝強く心を動かされる。感想を書くときに使える慣用句。イは「胸が苦しい」、ウは「胸に決める」などと混同しやすい。
(5)	**あめかんむり**	「震」の部首は「雨」。部首名は「あめかんむり」。「雨（あめ）」と答えたものも正答とする。「したごころ」「のぎへん」は×。
(6)	**ア**	繊細（細やかで感じやすい）⇔ 粗雑（あらくていねいでない）。イ「微細」・ウ「精密」は似た意味なので×。エ「丁寧」は対義語ではない。
(7)	**イ**	「読書」＝「書**を**読む」で、下の字が上の字の**目的（対象）**になる組み立て。「詠歌」＝「歌**を**詠む」で同じ。ア「山頂」は「山の頂」で修飾、ウ「高低」は反対の意味、エ「岩石」は似た意味の組み合わせ。

小計　14点

三　短歌の形式と修辞の用語　（2点×8＝16点）

番号	解答	解説
(1)	**三十一音**	五＋七＋五＋七＋七＝31。だから短歌は「**三十一文字（みそひともじ）**」とも呼ばれる。「三十二音」は数えまちがいをねらったひっかけ（俳句は十七音）。「字」ではなく**音**で数えることに注意。
(2)	**上の句**	初句・二句・三句の「五・七・五」をまとめた呼び方。連歌・百人一首の札取りでもこの区切りが使われる。
(3)	**下の句**	四句・結句の「七・七」をまとめた呼び方。上の句で情景、下の句で心情が述べられる歌が多い。
(4)	**腰**	第三句のこと。一首のまん中にあたるため「腰」「腰の句」と呼ぶ。五句の呼び名は**初句・二句・三句（腰）・四句・結句**。「結句」は最後の七音なので×。
(5)	**枕詞**	特定の語の前に置かれる**五音**の決まり文句。「あをによし→奈良」「ひさかたの→光」「たらちねの→母」など。調子を整え、古い歌らしい響きを生む。
(6)	**倒置法**	ふつうの語順を入れかえる技法。述語や心情の言葉が前に出ることで、**感動や強調**が生まれる。「倒置」だけでも正答とする。
(7)	**体言止め**	句や文の終わりを名詞（体言）で止める技法。言い切らないことで**余韻**を残し、印象を強める。動詞で終われば体言止めではない。
(8)	**隠喩**	「ようだ・みたいだ・ごとし」を使わず言い切ってたとえる技法（暗喩）。これらの語がはっきり出ていれば**直喩**。「比喩」とだけ答えたものは、ここでは×。

小計　16点　／　知識・技能　合計　50点

【用語を覚えるコツ】

五句の名前は「**初・二・腰・四・結**」と唱えて覚える。句切れは「**言い切れるところに丸（。）を打ってみる**」と見つけやすい。音数は**拗音（きゃ・しゅ等）は一音、促音（っ）・撥音（ん）・長音（ー）は一音**と数えるのが原則。

四　短歌の鑑賞　（50点）　＊自由選択型のため採点基準（ルーブリック）を示す

番号	満点の条件	採点基準（部分点）
(1) 4 点	**教科書「短歌に親しむ」「短歌を味わう」に実際に収められている一首について、作者名が正しい表記で書かれ、初句のはじめの二字が歌のとおりに書かれている。**	作者名２点／初句のはじめの二字２点。 どの歌を選んだかがわからない（両方とも無記入）場合は、**(2)以降も採点できない**ため０点とする。必ず書かせること。 教科書以外の短歌を選んだ場合は０点。作者名の漢字の誤りは－１点。
(2) 4 点	**①初句から結句までの音数が、漢数字で順に正しく書けている（例「五・七・五・七・七」）。** **②字余り・字足らずの有無が正しく答えられ、ある場合は何句目かが示されている。**	音数２点／有無と箇所２点。 音数の数え方は、**拗音は一音、促音「っ」・撥音「ん」・長音は一音**で数えるものを正答とする。一か所の数えちがいは－１点。 字余りがあるのに「なし」と答えた、または「あり」としながら**句を示していない**ものは、②は１点。 **「字」で数えて音数と食いちがっている**ものは音数部分０点。
(3) 6 点	**①句切れの位置が「初句切れ／二句切れ／三句切れ／四句切れ／句切れなし」のいずれかで正しく答えられている。** **②理由が、言い切りの形（終止形）・「や」「かな」などの助詞・句点が打てること・意味のまとまりのいずれかを根拠にして書けている。**	位置３点／理由３点。 理由が「そこで切れるから」「読んでそう感じたから」のように**根拠になっていない**ものは０点。 「ここで言い切っているから」「意味がいったん終わるから」と書けていれば３点。 位置をまちがえていても、理由の書き方が上の条件を満たしていれば**理由の３点は与える。**
(4) 8 点	**①技法名が、選んだ歌に実際に使われているものとして正しく挙げられている（体言止め・倒置・直喩・隠喩・擬人法・反復・対句・枕詞など）。** **②その効果が、「～によって、～という感じが強まる」のように、技法と読者の受け取り方を結びつけて説明できている。**	技法名３点／効果の説明５点。 技法名が歌の内容と合っていないものは０点。「比喩」とだけ書いたものは２点（直喩か隠喩かまで示せば３点）。 効果が「きれいだと思った」「印象的だった」など**感想だけ**で技法と結びついていないものは２点。 「余韻が残る」「リズムが生まれる」「情景が目に浮かぶ」「心情が強調される」など**具体的な効果**が書けていれば５点。 歌の言葉を引く場合は**十字程度までの短い語句**でよく、全文を書き写していなくても減点しない。

四　短歌の鑑賞（つづき）　＊自由選択型のため採点基準（ルーブリック）を示す

番号	満点の条件	採点基準（部分点）
(5) 8 点	**歌にえがかれた情景が、いつ・どこで・何が見えるかがわかるように、25〜40字でまとめられている。** **（例）夕暮れの海辺で、作者が一人静かに波の音を聞いている情景。（28字）**	場面（時・場所）…3点／見えるもの・様子…3点／字数とまとまり…2点。 **心情だけ**を書いて情景になっていないものは最大3点（(6)と区別させる）。 歌にない要素を想像でつけ加えすぎているものは－2点。 25字未満・40字超は－1点。
(6) 10 点	**歌全体をふまえて、作者の心情（主題）が25〜40字でまとめられ、「〜という思い」「〜心情」などの形で言い切られている。** **（例）ふるさとを遠くはなれた作者が、帰れない故郷を思ってなつかしむ心情。（33字）**	心情の中心をとらえている…6点／その歌でなければ書けない具体性がある…4点。 **情景をなぞっただけ**（例「海を見ている」）のものは0〜3点。心情の言葉になっていることが条件。 「さびしい」「うれしい」など**一語だけ**で終わっているものは6点止まり。 どの歌にも当てはまる一般論（例「命は大切だということ」）も6点止まり。 25字未満・40字超は－1点。
(7) 10 点	**①この一首を選んだ理由が書かれている。** **②歌の中の言葉や表現を手がかりにして、感じたこと・考えたことを述べている。** **③60〜80字に収まっている。** **（例）この一首を選んだのは、短い言葉だけで広い風景が目にうかび、作者のさびしさまで伝わってきたからです。三十一音の中に心をこめる短歌のおもしろさを感じました。（76字）**	選んだ理由…4点／歌の言葉を手がかりにした感想・考え…4点／文章のまとまりと字数…2点。 歌の言葉にまったくふれていないものは最大5点。 「おもしろかった」「よかった」だけで終わっているものは2点。 60字未満・80字超は－1点。 短歌の全文を書き写しただけで自分の言葉がないものは0点。

思考・判断・表現　合計　50点　／　総合　100点

【この教材で落としやすいポイント（８つ)】

1. 短歌は**五・七・五・七・七の三十一音**。俳句（十七音）と混同しないこと。「三十一文字（みそひともじ)」という呼び方もおさえる。
2. 五句の名前は**初句・二句・三句（腰)・四句・結句**。第三句を「腰」と呼ぶことを忘れやすい。
3. **上の句＝五・七・五、下の句＝七・七**。上の句で情景、下の句で心情という組み立ての歌が多い。
4. **句切れ**は、意味や調子がひと区切りつくところ。**言い切りの形や「や・かな」などに注目し、句点（。）が打てるかで確かめる。**
5. 音数は**字数ではなく音**で数える。拗音（きゃ・しゅ）は一音、促音「っ」・撥音「ん」・長音は一音と数える。**決まった音数より多ければ字余り、少なければ字足らず。**
6. **直喩**と**隠喩**のちがいは「ようだ・みたいだ・ごとし」があるかないか。「比喩」とだけ答えても正解にならない。
7. **体言止め**は名詞で終わること、**倒置**は語順の入れかえ。どちらも効果は「余韻」「強調」だが、名前と中身をセットで覚える。
8. 情景を問われたら**景色**、心情を問われたら**気持ち**。この二つを混ぜて書くと、どちらの設問でも点を落とす。心情は必ず「〜という思い」「〜心情」の形で言い切ること。